

《審議会報告・概要版》

総合計画審議会 第2回 第3部会

平成18年7月21日(金)午後1時30分
市役所本館6階 第4委員会室

(次第)

1 開会 (会長)

2 事務局素案説明 (事務局)

- 素案のうち時代の潮流,基本構想及び基本計画総論について内容を説明した。

(説明者:石井企画部長,渡辺土地利用担当部長)

3 審議

- 基本構想及び基本計画総論について審議を行った。(主な意見は以下のとおり)
- 次回,第3部会においても引き続き基本構想及び基本計画総論について審議することとなった。

[第3部会開催日程]平成18年7月25日 午後1時30分から

本館6階第3委員会室

以上。

終了:午後4時30分

(主な意見) 各部会での意見は別添意見一覧を参照ください。

時代の潮流

分権型が都市内分権であることがわかりにくい。

市民参加やNPOについて,もっと踏み込んだ記載をしたほうがよいのではないか。

生産力の低下や経済の低成長化など,グラフを入れるなど,わかりやすくしたほうがよい。

少子化・高齢化が,一般論だけでなく新潟市に落とした場合どうなるのか,市内でも地域によって傾向は異なるのではないか。政策につながるような記載を。数値を入れてもよい。

基本構想

目標年次が平成26年度というのは,半端ではないか。

「高次都市機能」はわかりにくい。

「地域」とは何をさすのか,わからない。

「地域」は一義的には区を指すとのことであるが,コミュニティのように感じる。

まちのかたちの概念図はわかりにくい。

まちのかたちの概念図で,白い丸が4つであるが,区の数8つにしたほうがわかりやすいのではないか。

「生活圏域」とあるが、買い物は都心部に来るなど、普段の生活で実感がないのではないか。交通をよくすればなおのことその傾向が強まる。

防災面など、地域をもっといきいきしてもらい働きかけが重要。

生活圏域 = コミュニティというのは無理がある。

都市像の施策で、興味をもった施策の詳細が見られるように、対応する施策別プランのページを記載してはどうか。

市民アンケートでも高齢者対策を望む声が最も多い。P14 に高齢者対策を明確に打ち出すべきではないか。

都市像 と は、図では分散しているが、意味合いは近いのではないか。

都市像 の施策の順番は、安全 安心 健やか 快適の順番でもよいのではないか。

図で、トライアングルが7つあるが、意味がわからない。

「優れたまちの形づくり」と「きれいな環境づくり」はぼやけた表現であり、もう少し変えてほしい。

「環日本海諸国」で、日本海という表現は好ましくないのではないか。

「上質な暮らし」の上質をもっとまろやかな表現に。

「快適な暮らし」は、記載がぼんやりしており、イメージがわからない。もっと具体的に記載したほうがよい。

「快適な暮らし」で、地域の歴史・文化を入れてはどうか。生活圏で感じる普段の感覚、時間的に蓄積されているようなものの記載を。

「ライフステージを豊かに」ではなく、「ライフステージにふさわしい・・・」となるのではないか。

基本計画総論

人口の想定で、単純推計人口の想定でもよいのではないか。

人口の観点からも、子どもを産み・育てやすく、女性が働きやすい環境づくりが必要。

第四次総合計画では人口を 49 万人から 55 万人と想定しているが、実際は 50 万 1 千人。この反省の上にたち、今回の人口想定をすべきではないか。

土地利用方針の 8 つの基本方針と 5 つの都市像との関連がわからない。都市像にあったほうがわかりやすいのではないか。

P14 の 5 つの都市像が 8 つの土地利用の基本方針と結びつくような工夫をしてほしい。

市域が広がっているのに、「コンパクトなまち」はわかりにくい。

P34 で、「自転車・歩行者にも配慮した」で、「にも」を「に」にしてほしい。新潟は平坦なところが多く、自転車の利用者も多いことから、自転車道の整備をきっちりしてほしい。新潟は車優先が当たり前になっており、横断歩道で停車しないことや高スピードな運転など、歩行者が危険な目にあうことも多い。

新潟交通の電鉄跡地を自転車道に整備すれば、安全な自転車道になる。

「農業の多面的な機能」は直売所などを指すのではなく、防災や景観などを指すのではないか。

現在の農業は生産性が低く、生産性を高めることは大きな課題であり、農業基盤の整備は景観より上位にくるのではないか。

P36の図だけを見てもよくわからない。

7区の記載がないことについて、住民にとって自分の区が文章に入っていないことはよくない。うまく文章化してほしい。

P38の図で、旧市町の区は地域拠点と生活拠点があるのに、7区は人口も多く区役所もあるのに生活拠点で描かれており、アンバランスな感じを受ける。(地域拠点は区の交流拠点で、生活拠点は生活レベルのサービスを提供する拠点で、地域拠点のほうがより広域的なサービスを提供する)

今後の超高齢社会に対応した、自動車や道路の整備ではなく、高齢者が動きやすい公共交通が必要。莫大な費用がかかるものであり、8年間で実現できないかもしれないが、部分的でも取り組んで欲しい。